

2025年10月24日

各位

日本特殊陶業株式会社

「いのち輝く未来社会のデザイン」2025年大阪・関西万博閉幕にあたり
Niterra グループの挑戦と、未来へ向けた取り組みへのご来場に深く感謝

Niterra グループ 日本特殊陶業株式会社（社長：川合尊、本社：名古屋市東区）は、2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）の閉幕にあたり、万博会場で展開した展示活動の成果と、ご来場いただいた皆様への感謝、そして今後の取り組みについてご報告申し上げます。

■ 万博出展の狙いと成果

当社は、2023年4月1日に英文商号を「Niterra Co., Ltd.」に変更し、「持続可能な社会へ貢献し、地球を輝かせる企業となる」という想いを込めた「Niterra グループ」として生まれ変わりました。万博のテーマである「いのち輝く未来社会のデザイン」に深く共感し、持続可能な未来への希望を世界に示す国際的な場として、万博への協賛を決定いたしました。

今回の展示では、以下の4点を目標に掲げました。

- ・未来を担う子供たちに**未来へのワクワク感**と、自分たちが未来を創るという興味関心を抱いてもらうこと。
- ・世界中からの来場者に対し、**ノンバーバルコミュニケーション***でメッセージを伝えること。
- ・**最先端の技術**、ワクワクできる未来の技術を体感いただくこと。
- ・Niterra グループが目指す、持続可能な社会へ、地球を輝かせる取り組みをアピールすること。

*：言葉を用いずに行われるコミュニケーションの総称。表情、視線、身振り手振り、姿勢、声のトーンなどが含まれる。

「未来の都市」パビリオンにおいて、当社は協賛12社で考える幸せな社会（Society 5.0）の5つの分野のうち、「環境・エネルギー」分野を担当いたしました。当社が提案する幸せな社会とは「資源・エネルギーがすべての人に平等に届いている社会」であり、その実現手段として「自律可搬型循環技術（装置）」を展示いたしました。

当プレイスでは、テーマを「CyclusNiterrium~Niterra の循環型社会実験場~」とし、水のシンボルである水盤（CyclusAqua）を基点とし、当社の技術で水と空気の循環を描いた「水と空気の循環パフォーマンス」や、愛くるしい自律可搬型循環装置のオリジナルキャラクター「ニテオン」の立体映像に触れながら循環技術を体感できる「空中感覚装置」の体験を通じて、来場者の皆様に循環型社会への取り組みに賛同いただきました。

■ 来場実績（2025年4月13日から10月13日までの184日）

| | |
|-------------------|---------|
| 「未来の都市」パビリオン総来場者数 | ：約190万人 |
| 当社展示プレイス来場者数 | ：約133万人 |
| 空中感覚装置体験者数 | ：約6.3万人 |

■ 空中感覚装置：未来の社会実験場が生んだ最先端技術

万博を未来の社会実験場と捉え、Society 5.0を想像できる最先端技術として、未来の新しいコミュニケーションの形を体感できる「空中感覚装置」を開発・展示しました。

本装置は、当社が開発した環境に優しい無鉛圧電セラミックスを用いた超音波発生素子を搭載し、①超音波技術による触覚、②超音波技術による指向性スピーカー、③裸眼3Dディスプレイで構成されています。空中に投影された立体映像に対し、触覚と聴覚を付与し、双方向のコミュニケーションを実現しました。これにより、体験者は技術の多様な可能性に気づき、夢を膨らませるきっかけとなりました。

将来的には、本装置の技術を応用し、コミュニケーションツールへの実装や、現実世界では困難な体験を提供する技術の一助となり、アイデア次第で人々の生活を豊かに変えることができるのではと考えております。



左：「空中感覚装置」全景
右上：同装置体験の様子
右下：オリジナルキャラクター「ニテオン」

■ 今後のビジネスと会社としての取り組みへの継承

当社では、自然界の最も身近な物質である「水と空気」の循環を、燃料、資源、エネルギーへと姿を変えながらサステナブルな社会に貢献し、最終的に元の姿に戻すことを可能することを、この万博ではお示ししてまいりました。

特に、循環装置が自律的に必要な場所へ移動する「自律可搬型」のコンセプトは、資源・エネルギーの平等な供給を実現するためのアイデアの一つです。

Niterra グループは、長年にわたり培ってきた技術と情熱をもって、万博で得られた知見と広く深い共感を力に変え、すべての人が幸せになるような未来の実現に向け、持続可能な社会に向けた課題解決に挑み続けてまいります。

引き続き、Niterra グループの挑戦にご期待ください。

以 上